

令和3年度 社会科 授業充実（改善推進）プラン

昨年度のプランの検証

昨年度は

- ① 社会的事象に関する興味・関心を高める。視覚的教材やプリント教材を工夫により、改善されている。
- ② 地図・統計資料等の読み取る機会を増やし、思考・判断力を育てるとした。テスト問題にも意図的に採用するなどして地図や統計資料等に親しむ機会を増やした。
- ③ 基礎的・基本的な内容の定着を図るとした。小テスト、単元テスト、宿題等を増やして学習の繰り返しの習慣を身に着けさせた。

社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>【1学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地理的分野・歴史的分野・公民的分野ともに、目標値と区平均正答率を上回る結果となった。 2. 領域別正答率は、「我が国の農業や水産業」以外は区の平均正答率よりも上回っている。 <p>【2学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地理的分野は区の目標値を上回り、歴史的分野はやや下回っている。 2. 領域別正答率は、「中世の日本」と「にほんのいき構成」以外は区の平均正答率をやや上回っている。 <p>【3学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「身近な地域の調査」以外は、区の目標値をやや上回っている。 2. 領域別正答率は、「近代の日本と世界」が区の平均正答率を上回っている。
観点別結果の分析	<p>【1学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「主体的に学習に取り組む態度」の観点別正答率が、区の目標値をやや下回っている。 2. 「社会的な思考・判断・表現」の正答率が一番高く、目標値より5点上回っている。 <p>【2学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全ての観点別正答率が、区の目標値をやや上回っている。 2. 「資料活用の技能」の正答率が一番高く、目標値より6点上回っている。 <p>【3学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「資料活用の技術」以外の観点別正答率が、区の目標値をやや上回っている。 2. 「社会的な思考・判断・表現」の正答率が一番高く、目標値より3点上回っている。

授業改善のポイント（調査結果等を踏まえて）

<観点別>

1. 関心意欲の観点については、授業の満足度を上げるための工夫を取り入れる。
2. 思考技能の観点については、全学年平均正答率50.0ポイントを上回るようにする。
3. 知識理解の観点については、全学年平均正答率50.0ポイントを上回るようにする。
特に、思考・判断・表現については、3年では十分ではないので授業内で能力を伸ばすようにする。

〔領域別〕

1. 地理的分野については、各国・各地域の地勢についての学習を深め、各論の授業を強化する。
2. 歴史的分野については、歴史の流れと時代毎の学習を深め、学習内容の関連性を強化する。
3. 公民的分野については、政治経済の重要語句についての学習を深め、興味関心を高める。

授業改善策

<観点別>

1. 新聞、ニュースなど身近な話題を授業中に取りあげて関心・意欲を高める。生徒の知識や情報量を増やす指導を続け、体験的作業を活用していく。
2. 授業の中で、資料や年表などから読み取れることを発表したり、レポートにまとめたり、班内での発表活動を多くすることなど言語活動の活性化によって、資料活用の技能・表現力を育てる。

〔領域別〕

1. 地理的分野については、各国や都道府県の地勢について、新聞等を活用し、具体的かつ詳細に学習する。データや写真資料・新聞などを効果的に使用し、視覚に訴える指導を増やすことによって情報量を増やし興味関心を喚起し、その上でじっくりと時間を掛けて取り組ませる。
2. 歴史的分野については、アジアやヨーロッパ地域との対外関係については、それぞれの地域の情勢を踏まえ、影響を考えさせながら、日本史と世界史との対照年表を活用し、同時代の歴史の動きをダイナミックに捉えさせる学習を進めていく。
3. 公民的分野については、新聞や様々な資料等の活用により、具体的事例を活用する指導を進めていく。政

治経済に関する基本語句の意味を把握するために、授業内で常時使用しかつ意味を説明していく。